

ベネッセハウスミュージアム 新収蔵作品を含む展示替えのお知らせ 2020年1月24日(金)より



左から、エルムグリーン&ドラッグセット《ハイウェイ・ペインティング No.9》2019 | 230 x 125 x 8cm | アスファルトにペイント、アルミフレーム
張曉剛(ジャン・シャオガン)《血縁: 大家族 No.10》2000 | 200 x 300 cm | キャンバスに油彩
ロバート・ラウシェンバーグ《エコ・エコー III》1992-93 | 223.5 x 185.4 x 66 cm | アルミニウムとポリカーボネートにアクリル、シルクスクリーン、ソナー動力モーター

ベネッセハウスミュージアムでは毎年、一年に一度、展示作品の一部展示替えを行っています。この度の展示替えでは、近年の収蔵作品を紹介すべく、それらを一部展示に組み込み、2020年1月24日(金)より公開します。

今回、初めてのお披露目となる新コレクションの7作品は、北欧出身のアーティスト・ユニット、エルムグリーン&ドラッグセットや韓国現代美術を牽引してきた朴栖甫(パク・ソボ)による新作絵画、中国現代美術史の主要な動向である「ポリティカル・ポップ」、「シニカル・リアリズム」を代表する王広義(ワン・グアンイー)や張曉剛(ジャン・シャオガン)による絵画作品、さらには、ネオ・ダダの代表作家であるロバート・ラウシェンバーグや「ジャンク・アート」彫刻のジョン・チェンバレン、単純な長方形で構成されたパブリックアート彫刻等で知られるジョエル・シャピロによる立体作品です。

それぞれ異なる時代、文化、社会背景のもとにつくられた、これら作品群は、機械化・大量生産による消費文化の台頭や経済・政治環境の変化と人間の「生」の関係等に鋭い視線を投げかけ、「プログレス(前進)」や「発展」、そして「生きること」について深い思索を促すかのようです。

常設のサイトスペシフィック・ワークや既存コレクションとこれらの新たな収蔵作品展示を通して、ベネッセハウスミュージアムを訪れる方々が自然豊かな瀬戸内に身を置いて、より多角的な視点で現代という時代、そして、生きることについて改めて考える機会をもってくださいれば幸いです。プレス関係の皆様には、広く告知いただきたく、お願い申し上げます。

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島

〒761-3110 香川県香川郡直島町850-2 Tel.087-892-2887 Fax.087-840-8277

E-mail BASN-press@mail.benesse.co.jp <http://www.benesse-artsite.jp/>

取材・掲載に関する問い合わせ: 平岩、ステンランド 展示内容に関する問い合わせ: 齋藤



左から、ジョエル・シャピロ《無題》2013 | 167 x 53.3 x 71.1 cm | ブロンズ、ジョン・チェンバレン《クロモ・ドーム》2006 | 157.5 x 197 x 142.2 cm | 鉄にクロームメッキと塗装、王広義(ワン・グアンイー)《大批判: ディズニー》2000 | 200 x 200 cm | キャンバスに油彩、朴栖甫(パク・ソボ)《描法 No.180105》2018 | 145 x 100cm | ミクストメディア、韓紙、キャンバス

作家・作品について

エルムグリーン&ドラッグセット | マイケル・エルムグリーン:1961年、デンマーク・コペンハーゲン生まれ。インガー・ドラッグセット:1969年、ノルウェー・トロンハイム生まれ。様々な表現方法を用いて、機転を利かせたアプローチで切り込むアーティスト・ユニット。《ハイウェイ・ペインティング No.9》は道路の一部を切り抜いたような作品で、STOPという文字が直接的なメッセージとなり鑑賞者に迫ってくる。

張曉剛(ジャン・シャオガン) | 1958年中国・雲南省生まれ。1980年代から動きが高まる中国の前衛美術を牽引した作家の一人。「血縁」シリーズは、中国人家族の写真をモチーフにその肖像画を描くことで、中国の現代社会と、それに翻弄される個人と家族の歴史と向き合った作品。

ロバート・ラウシェンバーグ | 1925年、アメリカ合衆国・テキサス州生まれ。2008年、アメリカ合衆国・フロリダ州にて死去。絵画と彫刻を融合したような、自ら「コンバイン」と呼んだ作品で知られる。もともと廃品として回収された看板類に色を塗ったり、シルクスクリン印刷を施した「エコ・エコー」シリーズは、後年、環境問題に向き合い、風力発電の持続可能性に着目したことをきっかけに制作されている。

ジョエル・シャピロ | 1941年アメリカ合衆国・ニューヨーク州生まれ。装飾的な要素を最小限にとどめるミニマリズムを踏襲しつつ、抽象と具象との関係性を探る彫刻を制作している。簡素な形を組み合わせたその作品の多くは人間の体を模しており、銅という素材を超えた躍動感があり、見る位置によって大きく印象が異なる。

ジョン・チェンバレン | 1927年、アメリカ合衆国・インディアナ州生まれ。2011年、アメリカ合衆国・ニューヨーク州にて死去。廃棄物を利用して作品を制作するジャンク・アートの作家として知られ、主に廃車の断片を素材として用いる。晩年に制作された《クロモ・ドーム》は、既存の塗装に様々な技法で色を加え、抽象表現主義、ポップ・アートの影響がうかがえる作家のキャリアを象徴するものとなっている。

王広義(ワン・グアンイー) | 1957年、中国・黒竜江省生まれ。社会主義リアリズムとポップ・アートを融合させた、中国のポリティカル・ポップの代表的作家。「大批判」シリーズでは、毛沢東時代のプロパガンダ・ポスターと欧米の商標を融合させ、共産主義国が資本主義的発想を取り入れることへの矛盾と葛藤を感じさせる。

朴栖甫(パク・ソボ) | 1931年、韓国・慶尚北道生まれ。欧米の抽象表現主義の影響を受けながら、韓国固有に確立された単色画の代表的な作家の一人。韓国の伝統的な紙を重ねた上に絵具を塗り、指や器具を用いて縦線を入れることで制作される作品は、連続的な痕跡の中に東洋的な静けさを思わせると評される。

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島

〒761-3110 香川県香川郡直島町850-2 Tel.087-892-2887 Fax.087-840-8277

E-mail BASN-press@mail.benesse.co.jp <http://www.benesse-artsite.jp/>

取材・掲載に関する問い合わせ: 平岩、ステンランド 展示内容に関する問い合わせ: 齋藤

ベネッセハウスミュージアムについて

「自然・建築・アートの共生」をコンセプトに、美術館とホテルが一体となった施設として1992年に開館しました。安藤忠雄の設計による瀬戸内海の景観や島の自然を大胆に取り込んだ建築の中に、絵画、彫刻、写真、インスタレーションなどの収蔵作品の展示に加え、アーティストたちがその場所のために制作したサイトスペシフィック・ワークが恒久設置されています。

施設情報 ベネッセハウスミュージアム
開館時間 8:00-21:00(最終入館20:00)年中無休(メンテナンス休館あり)
鑑賞料金 1,050円(15歳以下の方とベネッセハウスにご宿泊のお客様は無料)
所在地 〒761-3110 香川県香川郡直島町琴弾地 Tel.087-892-3223 (9:00-19:00)

ベネッセアートサイト直島について

ベネッセアートサイト直島は、直島、豊島、犬島の三つの島を舞台に、株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人 福武財団が展開しているアート活動の総称です。文化的、歴史的に豊かな美しい瀬戸内海の中自然の中に現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことを目指しています。アート作品や自然、瀬戸内の風景や地域の人々との触れ合いを通して、訪れてくださる方々がベネッセホールディングスの企業理念である「ベネッセ=よく生きる」とは何かについて考えるきっかけとなることを願い、地域とともに成長し社会に貢献するために活動しています。

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島

〒761-3110 香川県香川郡直島町850-2 Tel.087-892-2887 Fax.087-840-8277

E-mail BASN-press@mail.benesse.co.jp <http://www.benesse-artsite.jp/>

取材・掲載に関する問い合わせ: 平岩、ステンランド 展示内容に関する問い合わせ: 齋藤